

講座

最後に、本講座を執筆していただいた各位と編集に尽力して下さった講座担当委員の各位に、心から厚く感謝を表します。

本講座担当委員：新舎 博，辻 厚志，八谷好高，
伊藤 譲，吉岡 淳

書籍紹介

実例・経験に基づく 掘削のための地下水調査法 付（排水計画法）

高橋賢之助著

わが国のように地下水の豊富な未固結地盤で掘削工事を行う場合、実務者に欠かせないのが本書であろう。それは著者が、長年掘削工事での的確な地下水処理・対策を目指しているからである。

著者は1981年、『現場経験からの根切りのための地下水調査法』を出版されたが、出版後も研究・経験を重ねられて、本書にはこれら研究成果、新たな現場事例のほかに排水計画法も加わり、これに伴って旧著を大幅に修正された。そして旧著同様、実務者誰もが使えるように配慮されて、難しくほとんど利用されない公式や解説は省き、地盤を地下水の“容れ物”にとらえ、現場での現象・データの解釈のしかたを豊富な経験や事例を基に、容易に理解できるように解説している。

本書の構成は、1章：地下水調査や地下水処理のための予備知識、2章：掘削工事のための地盤調査のあり方、3章：地下掘削のための地下水調査、4章：揚水試験の解析法、5章：排水計画法、6章：実際例とその考察、になっていて、地下水処理で問題になる地盤・地下水の調査・解

析から排水計画、そして実際例まで、起承転結をなしている。

本書で、旧著に加筆された主な部分には、1章：その後得られた地下水位変動（植物性多糖類の影響による変動問題を含む、対策は3章）の例、2章：地下水処理で問題になる薄層の把握法として電気検層法、3章：井戸仕上げに採用するスワビング、最近多く採用される巻線型スクリーン、4章：揚水試験の解析法について、5章：全章加筆（ポンプ全揚程の計算法も含む）、6章：新たに現場の例、揚水試験の解析における問題点、付図・付表：自記水位計の選定資料、ポンプの性能表、などがある。

最近特に都市部では、限られた土地での高度な建築物・土木施設の建設が多く、掘削工事も大型化・複雑化したのに加え、揚水規制によって地下水位が相当なスピードで回復していて、地下水処理・対策に苦慮するケースが多い。

本書は、このような問題への対処を目指して著されたもので、現場実務者の必読の書として推薦できる。そして、経験・研究された成果を体系的にまとめられた著者に、深く敬意を表したい。
(三宅紀治)

A 5 判 395ページ 1990年10月発行
発 行 (株)山海堂
電 話 03-3816-1617
定 価 6,000円(税込み)